

厚生労働科学研究費補助金(障害者政策総合研究事業)
(総括・分担) 研究報告書

聴覚障害児に対する人工内耳植込術施行前後の効果的な療育手法の開発等に資する研究

研究代表者 高橋 晴雄 長崎大学 医歯薬学総合研究科(医学系) 客員研究員

研究要旨: 難聴児療育のガイドラインを作成した。米国での難聴児への療育の視察結果を学術論文として出版した。難聴児の保護者への療育のガイドとしてのリーフレットのドラフトを作成した。人工内耳術後の効果的療育による好事例、および先天性難聴青年・成人での人工内耳の効果のデータは現在収集中である。

高橋 晴雄
長崎大学 医歯薬学総合研究科
客員研究員

A. 研究目的

本研究の目的は聴覚障害児の療育方法の問題点を改善し、最適な療育方法を確立して、全国的にそれを周知することである。

B. 研究方法

研究期間中に下記の方法で研究を行う。

1. 難聴小児療育ガイドライン(GL)の作成
2. 海外視察での聴覚障害児療育の調査
3. 人工内耳(CI)術後の多職種連携による好事例の収集
4. 先天性難聴成人のCI効果の新知見収集
5. 難聴児への情報提供用の小冊子作成

(倫理面への配慮)

上記3,4では研究対象者に十分説明してICを取得し、個人情報を守り、全施設で倫理審査を受けた。

C. 研究結果

1. GLは完成した。
2. 海外視察報告書は提出し、学術論文としても出版した。
- 3, 4. 好事例、先天性難聴成人例のデータは現在収集中である。
5. 小冊子のドラフトは完成し、現在装丁や挿画などデザインを検討中である。

D. 考察

CI後の音声言語獲得には聴覚活用療育法が優れること、その過程で手話併用の優位性はみられないこと、聴覚活用療育法が音声言語発達に無効な難聴児の判別は療育開始前には困難なこと、などがわかった。

E. 結論

難聴確定後には可及的早急に聴覚活用療育を始めることが音声言語獲得には得策と考えられる。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

高橋晴雄、他: ロサンゼルス難聴小児療育施設の視察報告. 耳鼻臨床113;605-613, 2020

2. 学会発表

該当なし

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし